

国有林モニターを体験して

山形県鶴岡市

桑原 理早

Risa Kuwahara



国有林モニターに応募したきっかけは先輩からのお誘いでした。また、大学では林業を学んでいるので、机上だけでなく、実際に行動し、自分の目で確かめようと思い、様々な活動に参加させていただきました。

私は調査等で山や海岸林へ行くことが多いのですが、モニター研修会で行った場所は関係者以外立ち入り禁止の場所であったり、管理局の許可がなければ入ることができないような場所でした。そこでは自然災害によって崩壊した法面に草の種の吹付け工事を行ったり、大きく崩壊してしまった斜面にコンクリート枠を設ける工事などが行われていました。これらは、本来あるべき自然を元通りにすることを目的としています。大規模な工事が何年にもわたって行われ、少しずつ元に戻りつつある様子は、今の地球環境の縮図を見ているようでした。

地球温暖化や大気汚染など、今私たちが直面している問題は多くあります。これを工事にあてはめてみましょう。土を運ぶ車、石を寄せるパワーショベル、設計図を書く人…まだまだ役割はたくさんありますが、これらのどこが地球環境と結び付くのか。それは、「ひとつの目標に向かってそれぞれが得意なことを役割分担する」という点です。

環境問題は世界的に問題となっていますが、それぞれの方向性が統一されていないために、いまいち効果を発揮できていません。その中で私たちは何ができるのか。やはり、森林や自然についてもっと知ることはないでしょうか。話題としては知っているものの、なぜこうなるのかということまで理解していない人がまだ大勢いるのではないのでしょうか。例えば、よく耳にするのが、「木を切るのは環境破壊だ」ということ。確かに、行き過ぎた伐採は環境破壊になりますが、適度に大きく育てて伐採し、新しい木を植えるというサイクルがCO²の吸収・固定に有効なのです。樹木は呼吸しますが、光合成によって大気中のCO²を固定します。化石燃料と違って、樹木は燃やしても固定したCO²を再び大気中に放出するだけなので、CO²の排出量は実質プラスマイナス0ということになります。樹木はピークが過ぎると成長量が落ちていくので、いつまでも大きく育てればよいということではありません。また、山を手入れすることで動物との棲み分けがはっきりし、動物被害は軽減するといわれています。適度な伐採が日本の山を救うのです。

以上、モニターでの体験と森林の炭素固定について記述しましたが、モニターに参加することで自分の経験を織り交ぜながらたくさん勉強させていただくことができました。これからも森林について興味を持ったことを深め、周囲の方々と森林について考えていきたいと思っています。

平成24年度国有林モニターを募集しています

東北森林管理局では、国有林の役割や現状をご理解していただき、国有林の管理・経営に国民の皆様の声を役立てていくため、東北森林管理局の管轄地域である青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県に在住の方の中から「国有林モニター」を募集しています。

募集人数 | 数十名程度

任期 | 2年間(平成24年4月～平成26年3月)

内容 | アンケートへの回答、現地見学会・国有林モニター会議への出席

募集期間 | 平成24年1月4日(水)から1月31日(火) [当日消印有効]

その他 | 応募資格、応募方法など、詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせ | 東北森林管理局 国有林モニター係

tel.018-836-2274 fax.018-836-2031

HPアドレス http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/kokuminsanka/monitor/h23_monitor_bosyuu.html